

山中教授にノーベル賞



会見する山中伸弥教授と松本紘京都大学総長 (写真提供：京都大学)

iPS細胞作製

生理学・医学賞

画期的な発見

英の教授と共同

ノーベル財団(本部：スウェーデン)は、日本時間の10月8日(月)夕方、ノーベル生理学・医学賞を山中伸弥京都大学iPS細胞研究所長、米田グランドストーン研究所所長に贈ると発表しました。共同受賞者はジョン・ガードン卿(英国ケンブリッジ大学ウェルカム・トラスト/英国癌研究基金ガードン研究所教授)です。受賞理由は成熟した細胞を多能性を持つ細胞へと初期化できることを発見したためです。

山中教授の研究グループは、わずかに四つの遺伝子を皮膚細胞(線細胞に分化可能な多能性(iPS細胞：induced pluripotent stem cell))に導入することにより、さまざまな体をつくりだすことに成功しました。

マウスiPS細胞作製成功を2006年に発表し、2007年にはヒトiPS細胞作製を報告し、新たな道を開きました。

います。

iPS細胞の作製は、一度分化した体の細胞を未分化の状態にもどすという「細胞核の初期化(リプログラミング)」に関する画期的な発見であり、治療法が未だ確立されていらない難病の原因解明、薬の毒性検査、新しい治療法や薬剤の開発に

研究推進に大きな励み

山中教授 コメント

このような名誉ある賞の受賞は、私を含め同僚の研究者、その他世界中でiPS細胞を研究している科学者にとって、一層強力な研究に取り組むための大きな励みとなります。今後、難病の患者さんの体の細胞から作られたiPS細胞を用いて、新しい薬剤や治療法を開発することを、一日も早く実現するために、仲間の研究者と共に一生懸命頑張りたいと思います。

参拝する湊医学研究科長



遺族ら厳かに参拝

広島・廿日市

1945(昭和20)年、京都大学原爆災害総合研究調査班は、その年8月6日に原子爆弾が投下された広島にいち早く赴き、被爆者の診療及び調査研究を行っていました。同年9月17日に西日本を襲った枕崎台風により、滞在先の大野陸軍病院が山津波に見舞われ、調査班員のうち教職員、学生の11人の方々が多くの患者とともに犠牲となりました。

本年も、残暑厳しい中、現地(広島県廿日市市宮浜温泉・旧佐伯郡大野町)に参拝として執り行われています。

この慰霊の集いは平成7(1995)年の第50回を機に5年に一回開催され、その他の年は自由参拝として執り行われています。

ご遺族、本学名誉教授、廿日市市長・同市議会議長・市役所関係者・大野支所長、広島市関係者、広島県大会関係者、木村広島芝蘭会支部長、湊医学研究科長、三嶋病院長はじめ現職教授のほか、事務本部・医学研究科職員・芝蘭会事務局ら41名が参拝され、無事慰霊を執り行うことができました。

開会の挨拶をする湊医学研究科長



関係病院長と意見交換する三嶋病院長(右)

また、定例総会終了後に開催された懇親会において、出席いただいた関係病院の先生方と本院の先生方による活発な情報交換が行われ、大変有意義なものとなりました。

定例総会では、三嶋理晃病院長及び湊長博医学研究科長の開会挨拶、三嶋病院長からの京大病院報告の後、柳田素子教授(腎臓内科長)、松田秀一教授(整形外科長)、椎名毅教授(人間健康科学系専攻長・病院長補佐)、松原和夫教授(薬剤部長)より新任者挨拶が行われました。引き続き、小西靖彦教授(医学教育推進センター長)より、臨床実習について報告がありました。

100人以上、活発に情報交換

親睦深める

京大関係病院長協議会定例総会

京都大学医学部附属病 日(金)に、平成24年度院では、平成24年9月14 京大関係病院長協議会定

例総会を京都大学百周年時計台記念館にて開催しました。本協議会は、同会員である関係病院長が親睦を深めるとともに、医学の進歩発達及び病院経営の合理化を企画することを目的として年一回、定例総会を開催しているものであり、学内外から150名余りの参加



芝蘭會報

第176号

発行所

一般社団法人 芝蘭会
京都大学医学部同窓会

〒606-8315

京都市左京区吉田近衛町

TEL 075-751-2713

FAX 075-752-4015

E-mail: info@shirankai.or.jp

http://www.shirankai.or.jp

主な内容

- ⑧ ボランティアから居残り常勤医に
 - ⑦ 校友会・KMS・FUNDだより
 - ⑥ 心ある。臨床医養成のための
 - ⑤ 卒前医学教育(下)
 - ④ 支部だより 京都・三重
 - ③ 支部だより 福井・奈良・静岡
 - ② 支部だより 愛媛・滋賀
- 第64回西日本医科学学生総合体育大会
人事異動・会員計報

元ボクサー 医師。川島 実

みなさん、こんにちは。

平成11年卒の川島実と申します。現在、気仙沼市立本吉病院というところで院長をしています。震災で医師不在となった病院に半年間ボランティアとして通い、そのまま現地に居残り常勤医になりました。この経緯がマスコミに取り上げられたのを、耳目にされた人もいらっしゃるかと思います。

私がマスコミに取り上げられたのは、今回で2度目になります。最初にマスコミに暴露したのは卒業直前の冬でした。12月14日の赤穂浪士討ち入りの日にプロボクサーとしてデビュー戦を戦い、試合は引き分けに終わりましたが、現役の京大生がプロのリングで闘うというので翌日の京都新聞に大きく取り上げられ、ラジオが「京大も変わりましたね」と放送したりと、賑やかだったのを覚えていてます。

大学6年生というとき、自分が何科の医局に入るのかというのを真剣に考えるタイミングだったのだと思いますが、医療という他人さまの生死と関わる世界に怖気づいた私は、たまたま部活で始めたボクシングに活路を見い出し、プロの世界に飛び出します。「世界」を口にはしていましたが、後楽園ホールで全日本新人王を戦ったのをピークに負けが込み、結局29歳で16戦9勝5敗1引き分けの成績で引退しました。

この時は、子供と一緒に見たアニメの主人公の

ボランティアから
居残り常勤医に

被災地・気仙沼



「—————」
気仙沼市立本吉病院
スタッフら

母校の医学生、現地で実習
何よりの支援に

セリフにつられて南に移住します。食べるために働くなら食べるものを作ろうという発想で、和歌山の僻地で自給自足の生活を始めます。無農薬の米を収穫したり、ご近所に季節の野菜を分けてもらったり、友達から送られたカモで合鴨農法を始めたりと、人生初めての田舎暮らしを生きま

た。ところが、田舎で暮らし始めると、地方の医師不足の現実が直に目撃されます。もちろん農業の担い手も不足し、荒れた田畑はふんだんにあるのですが、借りることができたのですが、現地では農業の後継者よりもはるかに

医師のほうが必要とされたりしました。

という言葉を使いながら、地に足がついていないという危機感も感じていたように思います。負けが込みはじめ、将来への不安を膨らませながら、一つの幸せのカタチを実感していました。

引退して田舎暮らしを始めてからは、現金収入のために医療機関で働きはじめます。特養の嘱託医や、精神病院でのアルバイトです。卒後研修を受けていないので、処方箋はdoと葛根湯しかできませんでした。数多くの

お年寄りの身の上話を聞き、ボクシング現役の6年間、メンテナンスのために毎週接骨院に通った経験から、具合の悪い方の体を動かしました。看取りもさせてもらっていました。

人生初めての米作りは、育児とボクシングに集中したかったので医者としての定職には就きませんでした。医師免許を使ったのは、ボクシングのリングドクターと、子供のアトピーを診てもらっていた漢方の診療所での手伝いくらい。生活費は薬剤師の資格を持つ妻が支えており、私はボクシングを続けながら、今というイクメンの走りをしていました。

体力を限界まで追い込みながら、日中はわが子が小動物から人間へと変化してゆく様子を毎日眺めているという、今から思えば贅沢な毎日でした。当時は講演に呼ばれることもあり、自分で「夢」

という言葉を

研修医として世話になります。救急車が何台もつながつて入ってくるような環境は刺激的で、それまでの日常では経験したことのない血の海やたくさんの人の死に遭遇しました。沖縄にいた間に、かわいがられた祖父が地元で相次いで2人とも亡くなり、般若心経などお釈迦様の教えにも触れました。都市の救急病院で働きながらも、山奥の医者独りの診療所では何ができるのかいつも考えていました。

徳洲会グループ内で、米どころは庄内平野に異動させてもらって、子育てと米作りと仕事を絶妙なバランスで成立させていた時、地震がありました。2011年3月11日午後、私は病院の男性用トイレで放尿している最中だったので、こぼれないうち必死に壁に手をつけて体を支えたのを覚えています。津波が来なかった庄内でも地震直後は停電し、その後も2週間

はガソリンがなく物流も滞り、東海の関連病院から大型トラックに山盛りの紙おむつが届いたりしました。そういういつても庄内ではガソリンが入ってき

て物流が正常化すると、職場は落ち着きます。自分たちが落ち着くと、隣の宮城・福島はどうなっているのか気になるのが人情です。私も徳洲会が展開していた災害援助隊を通じて、宮城県気仙沼市の本吉病院に派遣されました。これが私と今の職場の出会いになりました。

現地に自分の足で立つて、驚きました。削られた山肌、はぎ取られた道路、散乱する瓦礫、遺体を捜索する自衛隊。灯りのない町を連なつて通る他府県ナンバーの警察車両。寒い病院でジャージや災害援助隊のジャケツを着て働く医療スタッフ。茶の間で見るテレビの映像と、五感+αで受け取る生の印象はあまりにも違っていました。

それから考えたのが、「何か自分にできること」。仙台FMだか公共広告機構だかのCMで当時繰り返して流れていたフレーズは、この後私の耳元で数カ月間、実際には私が本吉病院に赴任するまでの半年間、何者かが呟き続けます。津波をかぶって、機械もない薬もない、暖房もない、水すら出ない病院で、何の不平も言わず働くスタッフと、「ありがとうございまして」と言っている患者さまには、感動の念を禁じ得ませんでした。漠然とした「何か自分に」が具体的な

するんだ?と心配されながらのスタートでした。人口1万人の町に開業医はなく、常勤の医師は1人の状態でした。家族を200km離れた最上川河口の町に残しての単身赴任。自分でも、多少無茶かなとは思いました。が、常勤医がなくて困っているなら自分が常勤医になればいい、という単純明快な結論は変えられませんでした。ボランティアとして半年間通って、通うのは無理ではないという手ごたえはありました。

被災地の病院には、私が赴任してから日本全国からボランティアとして医師が詰めかけてくれました。本吉病院の魅力の一つは、日本中から集まる、地域医療に対するモチベーションとスキルの高い医師と出合える点です。半農半医の落ち着いた生活を目指していた私にとって、あまりにも刺激的でした。病院スタッフも、震災直後から入れ替わり立ち代わり現れ続けるこのような医師に刺激され、新しいモノを取り入れ、地域に還元しようという意欲にあふれ、とても働きやすい環境です。

被災地で働き始めて、もう一つ嬉しいことがありました。本吉病院では見学や実習の学生、研修

医を絶賛受け入れ中なのですが、赴任して間もなくのころから、母校・京都大学の医学生が実習に現れるようになったのです。若い目が職場に入るというだけでも田舎の病院にはいい刺激なので、が、鴨川と東山と近衛通に囲まれたキャンパスから訪ねてくる優秀な後輩たちは、故郷を遠く離れて暮らす私を毎日感動させてくれました。母校からの何よりの被災地支援だと思っています。

今年の春から2人目の常勤医を迎え、現場は若干の落ち着きをみせています。

が、全国からの支援は、もちろん当初よりは減りましたが、続けられています。とはいえ人口1万人の町に医師2名の体制は持続困難であり、被災地の復興を生活の底辺から支えるために地域医療、被災地医療を志す仲間を募っています。現行の医療政策では、人口密度の低い地域の住民は診察を受けるために遠方の病院まで通院することを余儀なくされています。焼け石に水かとは思いますが、北国での同窓生の活動も温かく見守っていただければ幸いです。

70回・2012(平成24)年版
芝蘭会会員名簿刊行へ

名簿作成にご協力いただき、ありがとうございました。

このたび平成24年12月に芝蘭会会員名簿を刊行いたします。

名簿作成にあたり、会員の皆さまから快く異動情報をお寄せいただき感謝申し上げます。

会員名簿をご希望の方は、芝蘭会事務局(075-751-2713)までお問い合わせください。

- 会員名簿：A4判、890頁
- 会員頒布代：
 - 一部 5,250円(消費税を含む)
 - (但し、会費納入者に限る。)
 - その他は 10,500円)
- 送料：700円

一般社団法人 芝蘭会

芝蘭会費納入は
自動振替で

平成17年度より芝蘭会費の納入方法として、「銀行口座等からの自動引落し」を採用させていただいております。会費納入のお手間が大幅に省かれ、また、会費の二重払いの防止にも繋がります。ぜひ、ご利用いただきたくお願い申し上げます。

手続き等については、
芝蘭会事務局
(TEL 075-751-2713)

までお問い合わせください。

京都大学医学部 校友会・教育研究支援基金 (KMS・FUND) だより

事務局
〒606-8501
京都市左京区吉田近衛町
京都大学医学部学生会館内
Tel.075-761-2467
Fax.075-752-1528
Mail-Address:
kyoto-kms-fund@office.
med.kyoto-u.ac.jp

山中教授の話に感銘

KMS・FUND 委員、薬剤疫学教授 川上浩司



校友会総会 医学部の現状学ぶ

2012年9月29日、柳田教授(腎臓内科学)から腎臓内科学や臨床研究の潮流についてのお話があり、渡辺教授(生体情報科学)および小西教授(医学教育学)からは、現在の京大医学部の医学部の現状や進級、医師国家試験の合格者の低迷といった身の引き締まる思いのお話がありました。

総会においては、土井会長からのご挨拶の後、湊医学研究科長から、いま大学が置かれている厳しい財政状況、最近の医学部における教育研究活動の様子とともに、旧解剖学講堂が京大医学部記念講堂・歴史資料館として生まれ変わり設立されることになった由が報告されました。

引き続きの講演では、明日の世界の医学、医療、そして健康を支えるべき京大医学部の学生を預かる教員としても、今後ますます、教育や研究指導をしっかりやっていくという間の90分となりました。大変お忙しい山中教授にご講演いただき、ありがとうございました。校友会会員であるご父兄や学生と、講演会にご登壇いただいた教授陣との和やかなムードでの交流

に感銘を受けました。折しも本会の興奮冷めやらぬ10月8日に山中教授がノーベル生理学・医学賞を受賞されたことは、京大医学部の関係者一同にとってもこれ以上なく喜ばしく、また誇らしい出来事となりました。学生諸君も、またわれわれ教員も負けじと頑張つて研究に邁進しようという大いなる刺激になったことと思います。

総会および講演会の後、2階に場所を移しての懇親会となりました。校友会会員であるご父兄や学生と、講演会にご登壇いただいた教授陣との和やかなムードでの交流

は、他にあまり機会もないことから、お互いの様子や本音で話のできる貴重な機会でした。この懇親会にも今後ますます多くの校友会会員の皆さまや教授陣が参加されることを願うものです。

さて、最後になります。校友会会員の皆さまにおかれましては、京大医学部の今後ますますの発展のために、KMS・FUNDへのこれまで通りのご支援とともに、前記の京大医学部記念講堂・歴史資料館の設置に向けたご寄附をぜひお願いします。

平成23年度表彰者は6人が選ばれました。校友会総会において、医学研究科長湊教授より表彰状と副賞が授与されました。今回



表彰されるKMYIA受賞者

KMYIA 6人決まる

2007年度より始まりました京都大学医学部教育研究支援基金は、芝蘭会の皆さまをはじめ延べ1500人もの方々のご理解のもと6年目に入りました。現在までの寄附申込み総額は別表グラフの通りです。

教育研究支援基金の重要な支援事業に「京都大学医学部若手研究者優秀論文賞(KMYIA)」があります。

素敵な雰囲気となるそうです。湊研究科長の言により、ますと、新記念講堂は、校友会会員のご父兄の皆さま(や私たち教職員)も学生気分でご講義できる

若手研究者優秀論文賞KMYIA受賞者の言葉

安全なナノチューブへの道

このたびはKMYIAをいただきました。京都大学医学部校友会の方々、推薦してくださった松田道行教授、指導教員の豊國伸哉教授、並びに関係の諸先生方に御礼申し上げます。

私は平成16年に京都大学医学部に入学後、MD・PhDコースを選択し、平成24年に大学院を修了した後、現在は医学部医学科課程へと復学しております。大学院は病理学の教室で外来性の物質による発がん機構を研究しております。私たちは日々、携帯電話や電子レンジといった便利な物に囲ま

このたびは京都大学医学部若手研究者優秀論文賞KMYIAをいただきました。本当にありがとうございます。修士課程から指導いただいた長田重一先生と研究室の皆さまに深く感謝いたします。

マクロファージの研究推進

私は、マクロファージによる死細胞の食食機構について研究を行っています。マクロファージは、死細胞を認識し、食食、分解する機構を持っており、生体内で、死細胞の蓄積による炎症を防いでい

戸田 聡

今回の受賞を励みに、今後も努力していきたいと考えております。よろしく願いいたします。

拡散強調MRIの活用追究

今回KMYIAを受賞させていただきました。身に残る光栄であるとともに大変身の引き締まる思いです。今回受賞をさせていただいた論文内容は、定量的拡散強調MRIを使用することによって、DCIS(非浸潤性乳管癌)のうち、低悪性度のDCISを非常に高い特異度でできるというものです。

飯間 麻美

今後とも「拡散強調画像を用いた非造影MRIによる画像診断法」の確立に向け、精進していく所存です。末筆ではございますが、教育研究支援基金にご寄附いただいた方々に深く感謝申し上げますとともに、校友会のますますのご発展を心より祈念いたします。

平成23年京都大学医学部若手研究者優秀論文賞 KMYIA 受賞者

【基礎研究部門】

永井 裕崇 病態生物医学 博士課程(医学専攻)
論文題目: Diameter and rigidity of multiwalled carbon nanotubes are critical factors in mesothelial injury and carcinogenesis
掲載雑誌: Proceedings of the National Academy of Sciences of the USA

戸田 聡 医化学 博士後期課程(医科学専攻)
論文題目: Two-step engulfment of apoptotic cells
掲載雑誌: Molecular and Cellular Biology

高瀬 昌幸 腎臓内科学 博士後期課程(医科学専攻)
論文題目: Dysfunction of fibroblasts of extrarenal origin underlies renal fibrosis and renal anemia in mice
掲載雑誌: Journal of Clinical Investigation

【トランスレーショナルリサーチ部門】

内藤 雅喜 内分泌・代謝内科学 博士課程(医学専攻)
論文題目: Therapeutic impact of leptin on diabetes, diabetic complications, and longevity in insulin-deficient diabetic mice
掲載雑誌: Diabetes

【臨床研究部門】

田辺 直也 呼吸器内科学 博士課程(医学専攻)
論文題目: Impact of Exacerbations on Emphysema Progression in Chronic Obstructive Pulmonary Disease
掲載雑誌: American Journal of respiratory and critical care medicine

飯間 麻美 画像診断学・核医学 博士課程(医学専攻)
論文題目: Apparent Diffusion Coefficient as an MR Imaging Biomarker of Low-Risk Ductal Carcinoma in Situ: A Pilot Study
掲載雑誌: Radiology

医学研究科医学専攻博士課程画像診断学・核医学分野

医学研究科医科学専攻博士後期過程医化学分野

医学研究科医学専攻博士課程病態生物医学分野

永井 裕崇

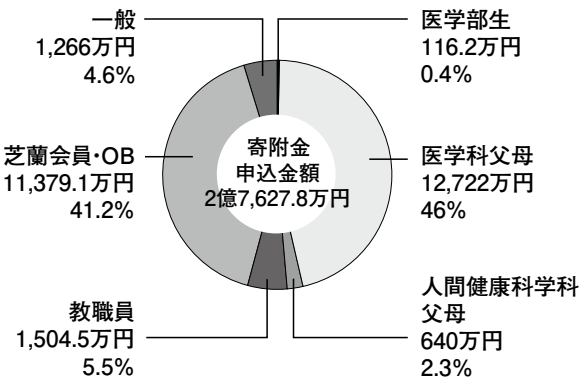
れて生活しているわけですが、歴史を鑑みずと実はそういった物質が人間社会の脅威にもなると後に分かることがあります。近年社会的に大変大きな問題となったのはアスベストです。私は、この高い耐久性を持つ微小繊維がいかにしてがんをつくるのかというところを研究しておりました。結果としてアスベストと類似性を持つ新物質の多層カーボンナノチューブの発がん機構の一端を解明し、安全なナノチューブを作るためにはどうしたらよいのかという理論基盤を報告しました。本賞を励みに、微力ながらもさらに努力していきたいと思

iPS細胞研究について講演する山中教授



KMS-FUND 寄附申込金額

平成24年10月24日現在



の懇親会となりました。校友会会員であるご父兄や学生と、講演会にご登壇いただいた教授陣との和やかなムードでの交流

「心ある」臨床医養成のための卒前医学教育試案

(下)

太田 富雄

(財)大阪脳神経外科病院
名誉院長
京都大学医学部
昭和31年卒

京都大学Freiheitの危機―それは日本の危機？

われわれの時代と比べ、全く異質な現代を理解し、現代学生たちの価値観を知ることが、卒前医学教育を考える場合の前提条件である。そうはいっても、彼らが社会人、特に臨床医として患者さんを診療し、カウンセリングする立場に立つという条件を考えれば、われわれとの間に大差はないはずであるが、「心ある」医師養成のための卒前医学教育は、これら背景と彼らの価値観を念頭にどうあるべきかを考えねばならない。

現代学生とわれわれの時代との決定的な違いは、食事を含め物質的には豊潤である。成人病を心配することはあっても、空腹を実感することはない。しかもIT機器の導入による、医学的知識をも含め知的情報収集の容易さ、周囲に知識が満ち溢れ、知的洪水に流されているかのようである。彼らが受けてきた現代民主主義教育により、群れることなく各自独立の生活に耽る傾向は強い。個性ある人間になれ」と教えられたことからすれば、その通りになった。WHOの健

康の定義、「健康とは、身体的、精神的および社会的に完全に良好な状態で、ただ単に病気または障害がないということではない」この健康定義によれば、少なくとも現在の大多数の日本人は、健康であると判断される。しかし、最近の日本人、とくに若者は元氣・活気がない。よいように考えれば、IT文明によって人類は画期的に進化し、合理的になったともいえるかもしれない。しかし、そのような社会環境下に、意思疎通にも慣れていない、人生経験の少ない若者が医師となり、患者さん家族との間に十分な意思疎通ができなければ、稀ならずトラブルが発生する。

「考えること」何よりも大切

81歳、後進のために考える

上級生が下級生指導を

お互いの価値観は尊重するが、やはり共同生活を大切に、円滑な意思疎通を図り、互助精神を養う必要がある。だからこそ人類は生物学的「ヒト」から社会人としての「人間 human being」に成長・進化し、現代文明を築いてきたはずである。私の場合を例にとれば、平沢教授という個性豊かな恩師から、どうすれば立派な医者になれるかを教えていただき、友と群れることなく、自己流で学生時代を過ごしたが、考えてみれば、危ない京大のFreiheitであった。

いずれにしても、臨床医に必須の知識は医学・医療と人間学、特に病める者の病態心理学と現場での実地訓練である。この両者を過不足なく会得し、カウンセリングにあたってこそ、初めて患者さん家族は納得し、感謝し、医師を尊敬することになる。そしてわれわれ医師も天職を全うできるのである。かつて医療を「手当」と言った。ただ単に患部に手を当てるだけのも患者は安心するのではなく、そのような状況でのカウンセリングの良し悪しが、患者の状態を良くもしくも悪くする。最悪の場合、医療訴訟に発展する。医療をサービス業とする部外者がいるが、そんなでもない認識不足である。

これまでの医学教育は、各大学でいろいろなと案され、実行されているようだが、大学の講堂に学生を集め、彼らの医学を学ばんとする motivation のいかに関わらず、医学的知識を口述しスライド投影する。いわゆる明治維新後の教育方針である「富国強兵」的詰め込み主義が現代まで続いている。現代日本は、そのような発展途上国ではない。教える側は、昔の京都大学の学風、Freiheitにもメスを入れ、もつと学ぶ者の価値観の変化に心を致し、卒前医学教育法を考えねばならない。苦しむ患者を前に冷静に対処する医療の現場を知らなければならぬ。現代学生は、自分自身で問題解決する習慣はないといわれる。このような状況では京大のFreiheitは危機

に立たされているといえる。考えてみれば、それは大変な変化・日本の危機である。実際、誰が未知の暗闇に挑戦するのであるか。それは京都大学であつたはずである。こう考えると、卒前医学教育を大学から解放し、彼らに学ぶことの「Freiheit」を提供することが急務である。医療経験の豊富な先輩医師たちが、実際に問診し、診察し、検査を計画し、治療に当たっては病状を説明し、治療の同意を得る日常の医療風景が、千差万別の患者さんを対象にして行われている。先輩医師の中にも、夢を語るものもあれば、現実の苦境を訴える先輩もいる。このような諸事実、それぞれの価値観を知ること

が現代若者の教育としてきわめて重要である。それが達成されると、現代にマッチした「心ある」優秀な医師が誕生するだろう。医療の現実を知らしめて、それをどう解決していくかをア、学びながら考えていく。「考えること、思索すること」が何より大切である。

現代医療環境の激変
医療ほど個別的で、現実に対応をしなければならぬ職種はないだろう。見知らぬ患者が、自分の病状を心配し、必死の思いで訴える。自分がこの世で一番不幸者だと言わんばかりにである。そのように身心ともに不安定な状況の患者さんから、多くの場合論理的説明は聞かれない。そんな条件下に、医師は家族を含めて対応しなければ

多くの時間の必要も緊張感もない。従って患者・医師の間にもかつてほどの濃い会話も交わされず、親密な関係が成立することもない。そのような状態で、術前の informed consent が簡潔であれば、「言った、聞いていない」の水掛け論が、術後に問題となり、医師に対する尊敬の念などみられない。絶対必須の術前の話し合い、informed consent、いやカウンセリングには、相当な時間と経験が必要である。新参医師がこの段階で訴訟などのトラブルを経験すると、その後の彼らの医療は委縮し、自在な発想ができなくなり、ただただ流行りの「ガイドライン」に沿った治療に終始する。保守的となる。そのような経験

を彼らにさせてはいけない。いずれにせよ、難しかった診断操作が他の部屋で機械が行い、簡潔に終わる現在の患者・医師間に緊張感はない。そうであれば、治療過程で、濃厚な患者カウンセリングが必須である。そして頭蓋内のどこに病変が存在しても、周囲組織との位置関係など、詳細なナビゲーション付きで手術が行われる。従って手術操作は以前よりはずっと精緻で、脳神経外科手術では経験数が大きな要素を占め、神の手をもつ「脳神経外科医がジャーナリズムの間に話題を呼ぶ。脳神経外科「学」が脳神経外科「術」に先祖返りした感があり、若き脳神経外科医にとって、マイスターの術を継承するための前近代修業の姿が彷彿される。

【5面に続く】

に立たされているといえる。考えてみれば、それは大変な変化・日本の危機である。実際、誰が未知の暗闇に挑戦するのであるか。それは京都大学であつたはずである。こう考えると、卒前医学教育を大学から解放し、彼らに学ぶことの「Freiheit」を提供することが急務である。医療経験の豊富な先輩医師たちが、実際に問診し、診察し、検査を計画し、治療に当たっては病状を説明し、治療の同意を得る日常の医療風景が、千差万別の患者さんを対象にして行われている。先輩医師の中にも、夢を語るものもあれば、現実の苦境を訴える先輩もいる。このような諸事実、それぞれの価値観を知ること

が現代若者の教育としてきわめて重要である。それが達成されると、現代にマッチした「心ある」優秀な医師が誕生するだろう。医療の現実を知らしめて、それをどう解決していくかをア、学びながら考えていく。「考えること、思索すること」が何より大切である。

現代医療環境の激変
医療ほど個別的で、現実に対応をしなければならぬ職種はないだろう。見知らぬ患者が、自分の病状を心配し、必死の思いで訴える。自分がこの世で一番不幸者だと言わんばかりにである。そのように身心ともに不安定な状況の患者さんから、多くの場合論理的説明は聞かれない。そんな条件下に、医師は家族を含めて対応しなければ

多くの時間の必要も緊張感もない。従って患者・医師の間にもかつてほどの濃い会話も交わされず、親密な関係が成立することもない。そのような状態で、術前の informed consent が簡潔であれば、「言った、聞いていない」の水掛け論が、術後に問題となり、医師に対する尊敬の念などみられない。絶対必須の術前の話し合い、informed consent、いやカウンセリングには、相当な時間と経験が必要である。新参医師がこの段階で訴訟などのトラブルを経験すると、その後の彼らの医療は委縮し、自在な発想ができなくなり、ただただ流行りの「ガイドライン」に沿った治療に終始する。保守的となる。そのような経験

を彼らにさせてはいけない。いずれにせよ、難しかった診断操作が他の部屋で機械が行い、簡潔に終わる現在の患者・医師間に緊張感はない。そうであれば、治療過程で、濃厚な患者カウンセリングが必須である。そして頭蓋内のどこに病変が存在しても、周囲組織との位置関係など、詳細なナビゲーション付きで手術が行われる。従って手術操作は以前よりはずっと精緻で、脳神経外科手術では経験数が大きな要素を占め、神の手をもつ「脳神経外科医がジャーナリズムの間に話題を呼ぶ。脳神経外科「学」が脳神経外科「術」に先祖返りした感があり、若き脳神経外科医にとって、マイスターの術を継承するための前近代修業の姿が彷彿される。

群れをなさず、自分勝手な物事を処理する現代若者に業を煮やし、時に韓国のように徴兵制でも敷いて、強制的に集団生活をさせるとか、医学部入学時に、老人施設などで短期間介護に当たらせるなどを提案する人がいるが、前者は全く荒唐無稽な発想であり、後者は医師としての主業務ではなく、もつと学生たちが己の将来を思い描き、心躍らせられるようなものでなければならぬ。

病院での卒前医学教育試案
今回の試案の核心に入ろう。どんな家庭教育を受けた新入生も、医師免許を取って医師として医療行為をする場面とは異なり、学生として医学・医療を学ぶという観点からの教育では、受け止める新入生の側としては真つ白な精神状態だろう。

【5面に続く】

「4面から続く」
彼らは有給者でないから、病院経営者ももろ手を挙げて歓迎してくれるだろう。各病院は、文科・厚生省よりの一時的補助金により、学生のための学習環境(例・映写機、コピー機などの整った図書室)および居住性に配慮する。時々夕食など共にし、反省会などをするにしても、費用に差し効果の大きさは無限と言えよう。病院各科は若い学生が活動すれば、活気づくだろう。関連社会活動にも参加させられ

ば、社会人とのコミュニケーションの経験が増える。一般教養も身につけてくるだろう。周辺に災害でも発生しようものなら、その主役の大部分はこれら学生たちということになる。

円滑な「心ある」臨床医のための準備段階は終了する。また、医療とはこんなことなのか、もっと科学的ではないのか、分かっていないことが余りにも多すぎるのではないかなど、現代医療の限界に疑問を抱くものもいよう。そうすれば、医学をもっと根源的に改善しなければと、将来基礎医学に進むことを選択する優秀な学生も出てくるだろう。今、基礎的神経科学の花盛りである。極めて魅惑的な学問である。このような環境下、現

代のグローバルゼイションの世の中にあつては、彼らの眼・興味は海外にも及ぶだろう。短期外国大学への留学も多くなるだろう。

大学院大学の役割
—— 自学習の助言者、Translational Research
そして地球の安寧
今回の卒前医学教育試案における大学院大学の役割は、学生たちの知識の総括・系統化の助言者であること、彼らの新鮮な目で観察された新たな臨床的疑問点の意味付けや、若者の心を躍らせる

との連携により、新しい医学に必須な学際的共同研究などが、同一大学キャンパス内で推進されるべきだろう。国内・国際的に、各大学間の共同研究も時間的に可能となってくるだろう。大学院大学に独立採算、経済的自立を求めるのではなく、基本的維持に必要な費用は認め、後は自分たちで、公的私的研究費を獲得する努力をするようにする。

もちろん、21世紀はグローバルゼイションの時代だから、ただ単に、日本固有の文化を頑なに保守するのではなく、アメリカ功利主義、イスラムの人々の考え方、さらに東アジア諸国の文化と、わが国の誇るべき修正儒教・老荘思想、仏教、国学・神道、武士道精神などを習合し、時代に相応しい新しい文化を創出しなければならぬだろう。この点に関しては、和魂漢才・洋才といわれ

が国は国際世論の牽引役を果たせるものと確信している。

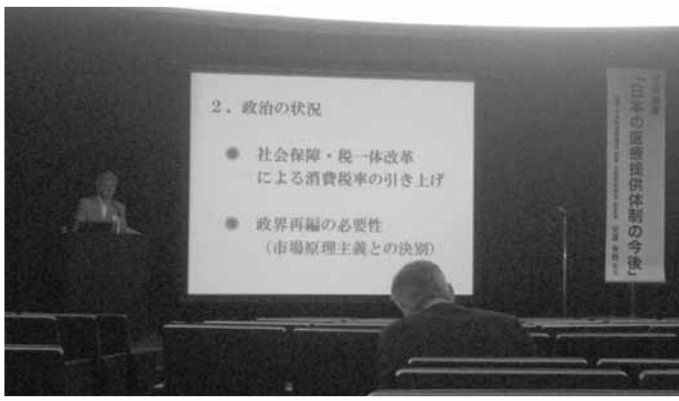
老婆心から、大言壮語した感があるが、自分の来し方を振り返り、こうしておればもっといい人であったらと思うと思われ、人々から尊敬され、充実した人生であること

を念願してやまない。幸いなことに、京都大学の学風は、Feilichが伝えている。Feilichのもとは、こころが生まれる。思索しない人間は一流にはなれない。大学でどれほど懇切丁寧に教えられるよりも、豊の上の水練では、「心ある」臨床医は育たない。後ろ指を指されるような、脆弱な臨床医ではなく、患者・家族から自然と感謝・尊敬されるような、指導的で「心ある」医師を養成しようではないか。

なお、先輩および後輩の諸先生、さらに現在学生の皆さんにも、忌憚のないご意見を頂戴したい。みんなで母校の誇り、文化的にも科学的にも創造的発想の源になる、Feilichを堅持できる方策を探しませんか。

診療報酬改定を学ぶ

【京都】平成24年7月1日(日)、芝蘭会館にて芝蘭会京都支部総会が開催されました。野口雅滋先生の司会のもと、支部長である真鍋克次郎先生による挨拶から始まり、その後、物故会員の先生への黙祷を捧げ、会務報告、会計報告、芝蘭会本部報告、議事といった具合に会は進みました。



講演する安達秀樹先生

セージ性を持ったものであると話しておられました。

日本の診療所は他国

療所は他国

のものと比較してもかなり優れており、診療所の役割をより幅広いものにすると同時に点数を増加させ診療所を優遇するさ

らなる改定

が必要であるということ

を強調なさっておられました。そして今後の中医協のなすべきこと、また、医療を取り巻く環境についてお話しくださいました。

中医協は今後も消費税

住宅医療の強化、そして社会から求められる役割を考えるとという明確なメッ

二人の講演 熱心に聞く



三重支部総会の参加者ら (ホテルプラザ洞津)



データを交え講演する三嶋先生

頭の挨拶のあと、物故会員の黙祷から開始されました。引き続き例年のように支部の会員状況、会計報告をご承認いただいたあと、本題の学術講演をお二人の先生から賜りました。

脳血管障害における接

着分子や炎症性サイトカインの役割とその制御メカニ

ズムについて、主に動物実験データを示してお話しただきました。特に新規のリポソーム修飾体(Liposome modification)による脳虚血保護効果の話は印象的でした。

最近、芝蘭会の方々へ芝蘭会または京大医学部事務職員の名前をかたて、個人情報(住所、電話番号等)を聞き出そうとする不審な問い合わせの電話があるというのを会員の方からご連絡をいただいております。芝蘭会とは全く関係がございませんので、くれぐれもご注意ください。芝蘭会では会員の方から住所変更等のご連絡がない限り、事務局からはお問い合わせいたしません。ご不審なことがありましたら、芝蘭会事務局までご連絡ください。

芝蘭会事務局 TEL 075-751-2713 FAX 075-752-4015

【三重】平成24年7月15日(日)、芝蘭会三重支部総会が開催されました。支部総会は支部長の冒

データ

手術の動画 興味深く



福井支部総会の参加者ら（ホテルフジタ福井）

【福井】平成24年8月18日(土)、ホテルフジタ福井にて芝蘭会福井支部総会が行われました。支部長の野口先生の挨拶から会は始まり、同窓会のような気持ちで和気あいあいとお話がありました。

その後、昨年度報告、本年度案へと議題は進み、お二方の支部会員による研究発表がありました。

一つ目は、福井大学医学部医学科生命情報化学講座分子遺伝学領域准教授である黒岡尚徳先生による、「筋芽細胞の分化におけるBMPシグナルの役割」でした。人体の発生において重要な役割を果たすのが転写因子や転写調節因子と呼ばれるものです。黒岡先生の研究内容はこれらの一種であるBMPが筋芽細胞の分化にどのような役割を果たすか、というものでした。筋芽細胞は通常高血清培地にあり自己増殖していますが、血清が低下するとBMP濃度が

低下し、これによってidという転写調節因子の発現が低下し、筋肉への分化が誘導されます。逆に、血清が高値のままだとBMP濃度が上昇し、これによりidが増加すると骨への分化が誘導されます。

また、インシュリンが増加すると脂肪への分化が誘導されます。これらのメカニズムの解明により、筋肉の再生医療への応用が期待されているそうです。

二つ目は、杉田玄白記念公立小浜病院外科の西川徹先生による、「当院における初期研修医の手術集」でした。杉田玄白記念公立小浜病院の外科では若手に経験を積ませることに非常に積極的で、研修後すぐのドクターも実際に手術を行う機会があるそうです。実際の手術の様子を動画で見せていただき、腹腔鏡下虫垂切除や胆嚢切除、ヘルニアなどの映像がありました。何をしているのか、その手術がどれほどの難易度なのか、さっぱり分かりませんでした。

直腸ガン治療の現状知る

【奈良】8月25日(土) あやめ館にて

芝蘭会奈良県支部総会が開かれました。今年は年齢層も幅広く、総勢25名の先生方にご参加いただきました。まず砂川晶生先生の紹介で坂井義治消化管外科科学教授による医学部及び附属病院の現状と運営体制の説明、新着任の教授紹介、企業とタイアップした産学協同プロジェクトを行う先進医療機器開発臨床センターの設立、iPS研究所、来春竣工予定のMedical Innovation Centerなどの紹介がされました。また旧解剖講堂の耐震改修及びそれに伴い京都大学医学部記念講堂歴史資料館を設立する予定である



話が弾む奈良県支部総会の出席者

は食道癌の20%、胃癌の20%、全摘の10%、結腸癌の25%、直腸癌の20%しか行われておらず、安全性が徐々に確立してきている一方でまだまだ一般には浸透していないことが指摘されています。

また手術以外にもMRIの進歩により小さなリンパ節の郭清が可能となり、奏効性の高いmFOLFFOXといった化学療法の出現により直腸癌治療が大きく向上しています。放射線治療においては、直腸癌の放射線単独の

効果的でリスクの低い治療法考える



静岡支部総会の参加者ら

【静岡】平成24年9月22日(土)、静岡グランドホテル中島屋にて平成24年度芝蘭会静岡支部総会・懇親会が開

催されました。総会は支部長である静岡市立静岡病院院長の島本光臣先生の挨拶で始まり、新院長紹介の後、議

事、晴らしい会に参加させていただき本当にありがとうございました。文責：3回生 真辺 諄

のキャンファレンスに欠かさず顔を出していたそうです。講演終了後には集合写真を撮り、会場を移して瀬戸副郎先生司会のもと懇親会が行われました。

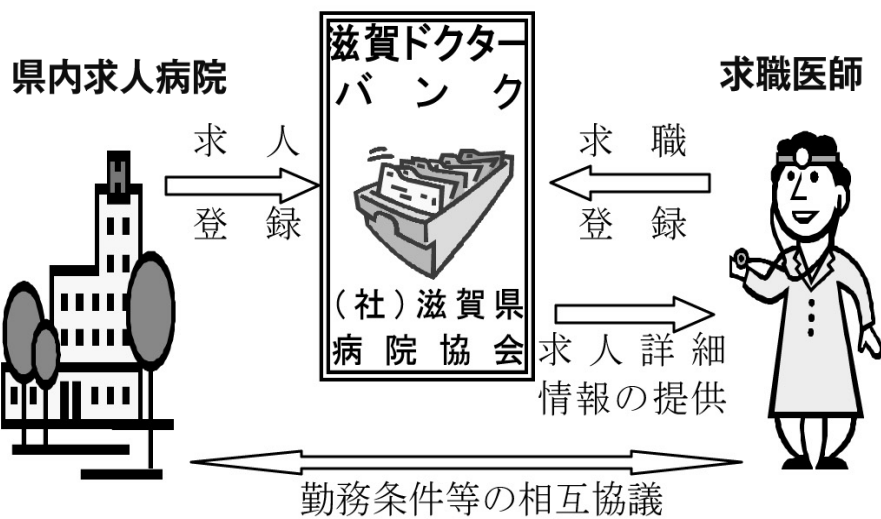
京都大学脳神経外科の教室では「自修自得」の理念を掲げていて、考える力を持つ外科医を育てることを目標としています。

病巣を弱くしていつて、自分の強みで戦っていくことが外科医に必要なことで、そのためには既存の治療法にとらわれず、自分で工夫してより効果的でリスクの低い治療法を常に模索すべきであるとのこと。実際に治療法を身につける際にも机上で見て学習するのではなく、実際に練習してみようという意識を持って、平成24年度芝蘭会静岡支部総会・懇談会の報告を終わらせていただきます。

(文責：3回生 森山太陽)

滋賀ドクターBANK

滋賀ドクターBANKは、滋賀県内の病院勤務をご希望されるドクターの希望病院探しをお手伝いいたします！



詳細は **滋賀ドクターBANK** で検索

まずは、下記までお電話・ファックスを！

社団法人 滋賀県病院協会

〒520-0044 滋賀県大津市京町四丁目3-28

(滋賀県厚生会館内)

TEL: 077-525-7525 FAX: 077-525-5859

※この「滋賀ドクターBANK」は、滋賀県から受託して実施しております

日本の医療体制を考察



含蓄のある話を伺った愛媛支部総会懇談会

【愛媛】平成24年9月29日(土)午後6時より、愛媛県道後の大和屋本店にて「平成24年度愛媛支部総会・懇親会」が開催されました。会には20人ほどが参加され、こじんまりとした雰囲気でした。

総会ではまず、支部長の門田和紀先生により「京都大学医学部の現況」が報告されました。続いて特別講演といたしまして、京都府医師会副会長、中央社会保健医療協議会委員の安達秀樹先生をお招きして、「日本の医療提供体制の今後」という題目で講演いただきました。安達先生は昭和45年京都大学医学部卒で京都大学医学部放射線科助手、京大病院核医学科講師を経て1988年に安達消化器科・内科医院を開業。2000年から京都府医師会理事、2006年から同副会長を務められ、2009年からは中央社

保健医療協議会委員を務めておられます。講演の内容ですが、現在日本には国民皆保険制度があり、いつでも、どこでも、だれでも自由に医療を受けられます。しかし、昨今の体制が崩れかねない議論が起きています。混合診療、全面解禁論、現在、混合診療は部分的に解禁されていますが、全面解禁されることで所得による医療格差が生じる可能性があります。軽医療費負担制はなかった医療費のうち一定金額までは保険給付の対象から外すというもので、民間の自動車保険の免責と同じような考えによります。しかし、約半分が公費で賄われている国民皆保険制度に適用するのは道理が違います。また社会保障費は年々増加の一途をたどっていますが、医療費に関しては上回る以外はないでしょう。というのも、高齢化に伴う一般医療費の増大や高額な先進医療の発達は明らかです。

ではこのような問題を解決するためにどのようなことを考えればいいのかというと、上らざるを得ない医療費の再評価が必

要になります。先進医療費の保険給付については現在定性的な基準に基づいて判定されているからいいますが、費用対効果を考え、定量的に評価して保険給付を考えていくことが重要であります。

そもそも、このような現状を作り出した原因は市場原理主義や新自由主義にあるといえます。新自由主義では低福祉、低負担、自己責任を基本とし、その後、記念写真の撮り、公共サービスにおいても市場原理を用いようとするものでした。本邦における構造改革でも新自由主義的な考えのもと、社会保障制度の見直しが行われ、今現在も社会保障制度については議論が続いています。医療制度をこのような構造改革の対象とすべきか、外に置くべきか、今後日本の医療体制がどのような道をたどるか医療に携わるものとしては考えないわけにはいかないでしょう。

その後、記念写真の撮り、公共サービスにおいても市場原理を用いようとするものでした。本邦における構造改革でも新自由主義的な考えのもと、社会保障制度の見直しが行われ、今現在も社会保障制度については議論が続いています。医療制度をこのような構造改革の対象とすべきか、外に置くべきか、今後日本の医療体制がどのような道をたどるか医療に携わるものとしては考えないわけにはいかないでしょう。

震災禍の福島県医療テーマ 医師は何ができるか探る



終始和やかだった滋賀支部総会

【滋賀】平成24年10月13日(土)、ホテルニューオウミにて、芝蘭会滋賀支部総会が開催されました。笠原吉孝先生の司会のもと、物故会員の先生への黙祷を捧げ、支部長である折田雄一先生による挨拶、会計報告といった具合に会は進みました。また、新しく幹事になった先生方の紹介や、次期総会の開催についてのお知らせもなされました。

次に、京都大学医学研究科・医学部長である湊長博先生が大学報告をされました。基礎研究者育成のためのMD・PhDコースについてや、山中伸弥教授がノーベル賞を受賞された話題のiPS細胞の研究施設の増設についてなど、最近の医学研究科・医学部の動きについてお話しされました。

芝蘭会館がご利用いただけます

学会やシンポジウムへのご出席はじめ、同窓会などのお集まりや、京都観光のご宿泊に、芝蘭会館別館[国際交流会館]をご利用ください。

古都の風情に彩られた空間でみなさまのお集り、ご宿泊をサポートさせていただきます。

Shiran Kaikan Annex International Friendship Hall

一般社団法人 芝蘭会 (しらんかい)

芝蘭会館別館

〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町 11-1
Tel. 075-771-0958 Fax. 075-752-4015
E-mail: info@shirankai.or.jp http://www.shirankai.or.jp

レストラン [しらん] Tel. 075-752-1027

会館ロビー

和室

ツインルーム

シングルルーム

芝蘭会館別館へのアクセス

- 京都駅から
●D2 東門 市バス 206 系統「東山通北大路バスターミナル」行「京大正門前」下車徒歩 2 分
- 地下鉄「国際交流会館」行「今出川」下車出口 3 番、市バス 201 系統「百万遍・祇園」行乗換「京大正門前」下車徒歩 2 分
- 阪急河原町駅から
市バス 201 系統「百万遍・祇園」行、31 系「統熊野・岩倉」行「京大正門前」下車徒歩 2 分
- 京阪出町柳駅から 徒歩 15 分

客室ご利用料金 (税込)

シングル (18 室)	定員 1	6,800 円
ツイン (3 室)	定員 2	12,700 円 (シングルユース 10,400 円)

- 宿泊室 (全室洋室) は、バス、トイレ、テレビ、冷蔵庫、インターネット接続が付きです。
- 芝蘭会館会費 (会費納付者) は宿泊利用料金を、1,000 円割引させていただきます。
- チェックインタイムは午後 3 時、チェックアウトタイムは午前 10 時となっております。
- キャンセルについては、3 日前より宿泊利用料金の半額を請求させていただきます。

研修室・会議室ご利用料金 (税込)

利用時間	9:00~12:00	13:00~15:00	16:00~22:00
研修室 1・2	定員 60 名	15,000 円	18,400 円
会議室 B1	定員 20 名	9,800 円	11,500 円
和室 1・2	定員 10 名	6,300 円	8,000 円

1万人、目どりの成果発揮

岡山大が代表主管 西日本医科学生総体

第64回西日本医科学生総合体育大会 試合結果

【剣道部】	
男子団体	予選敗退
女子団体	予選敗退
【ラグビー部】	
一回戦	京都 6 - 19 近畿
【サッカー部】	
一回戦	京都 2 - 1 鹿児島
二回戦	京都 3 - 0 浜松医科
【バドミントン部】	
男子団体	
一回戦	京都 3 - 1 琉球
二回戦	京都 3 - 1 岡山
三回戦	京都 1 - 3 和歌山医科
女子団体	
一回戦	京都 2 - 0 川崎医科
二回戦	京都 0 - 2 久留米
【バスケットボール部】	
男子団体	
一回戦	京都 70 - 81 金沢医科
【硬式テニス部】	
男子団体	
一回戦	京都 2 - 5 三重
【準硬式野球部】	
一回戦	京都 7 - 9 山口
【ボート部】	
芝蘭（京都）	1位

【バレー部】	
男子団体	
一回戦	京都 2 - 1 奈良県立医科
二回戦	京都 2 - 0 山口
三回戦	京都 2 - 0 大阪市立
準決勝	京都 2 - 0 大阪
決 勝	京都 0 - 2 佐賀
【ハンドボール部】	
決勝トーナメント一回戦	京都 19 - 30 滋賀
決勝トーナメント敗者復活戦	京都 17 - 30 大阪医科
【ソフトテニス部】	
男子団体	
一回戦	京都 4 - 1 金沢
二回戦	京都 1 - 3 熊本
女子団体	
二回戦シード	京都 1 - 2 富山
【水泳部】	
女子 100m 自由形	6位 土井裕子 1'07"60
男子 200m 自由形	3位 阪原宏規 2'06"88
男子 50m 自由形	3位 中嶋崇貴 25"55
男子 200m 背泳ぎ	5位 高屋龍生 2'23"27
男子 400m メドレーリレー	6位 (高屋・前田・阪原・中嶋) 4'22"89
男子 200m フリーリレー	5位 (中嶋・宗宮・伊東・阪原) 1'43"81
男子 800m フリーリレー	3位 (高屋・赤埴・伊東・阪原) 8'43"36

ヨット470級 京大、十数年ぶり栄冠

第64回西日本医科学生総合体育大会は、岡山大学が代表主管校を務め、全国から集った44校が優勝を目指し覇を争いました。京大医学部ヨット部は、西医体優勝を目指して、琵琶湖で練習に励んできました。琵琶湖では、大学医学部系のヨット部活動として、他に京都府立医大や滋賀医大、大阪医大などが活動しています。西医体には、そういつた各水域の大学が自分たちの艇をトラックで会場となる水域に持ち寄って行われます。

本年度の西医体は、広島大学医学部ヨット部主管のもと広島観音マリーナにて行われました。会場水域ごとに風の強さや潮の流れ、波の高さなどが異なるので、毎年レース前に現地入りして練習するのですが、琵琶湖で練習している私たちは、海水により普段より艇が受ける浮力が大きいに違和感を覚えたり、時間帯によって変わる潮の流れに戸惑ったりしつつも、日本三景の一つ、宮島を背景に帆走する喜びを感じていました。

レースは3日間で8レース開催され、470級は小西宏樹・山田翔ペアが出場し、レース初日から首位を走り、二位には地の利がある地元開催の広島大学が僅差でつuckingしました。最終日には一年の垣根を超えて一丸となり、一つの目標に向かってきたからだと思います。忙しい中、練習を手伝っていただいた先輩、春に入部してくれた一回生たち、いつも応援してくださるOB・OGの皆さまには非常に感謝しています。

ヨットに魅せられて、資料を読みあさったり、動画を研究したり、試行錯誤を繰り返してきましたが、最後の夏に、今までの集大成を残すことができて本当に良かったです。これからは後輩たちに学んできたものをできるだけ伝えていければと思います。

【水泳部】
今年の西医体は、大型ルーキーの高屋龍生や、歴代女子最速の土井裕子をはじめ個人戦では見どころがたくさんありました。個人的には、今年卒業の勝島将夫が自己ベストを大きく更新したことに最も感動しました。全体としては、各種目とも大幅にレベルが上がりましたが、毎日の練習に励んできた部員たちが自己ベストをどんどん更新していくのには心を動かされました。自分自身もベスト記録更新ができ、来シーズンも頑張りたいと思っています。

最終結果は、男子6位、総合16位でしたが、活躍する部員たちを見て猛烈に燃えた三日間でした。来年も各自が全力を出し自己ベスト更新を目指してしてほしいものです。（入賞者は別掲）

なお、その他の部は結果のみを掲載します。（文責・・・5回生 山田直生・3回生 森山太陽）

人 事 異 動

発令年月日	氏 名	異動内容
H24.7.31	田中 義正	辞任 次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点特定准教授より長崎大学特任准教授へ
H24.7.31	岸本 寛史	辞任 地域ネットワーク医療部准教授より高槻赤十字病院緩和ケア診療科部長へ
H24.8.1	秋山 治彦	採用 感覚運動系外科学整形外科学特定准教授より同准教授へ
H24.8.1	青木 友浩	採用 次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点特定研究員より同特定准教授へ
H24.8.1	松本 理器	昇任 病院助教より脳病態生理学臨床神経学講師へ
H24.8.1	小谷 泰一	昇任 法医学助教より同講師へ
H24.9.1	武藤 学	昇任 消化器内科准教授より内科学腫瘍薬物治療学教授へ

発令年月日	氏 名	異動内容
H24.10.1	村山 敏典	昇任 探索医療センター講師より同准教授へ
H24.10.31	小阪 謙三	辞任 周産母子診療部講師より静岡県立総合病院産婦人科へ
H24.11.1	妹尾 浩	採用 内科学消化器内科学特定講師より同講師へ
H24.11.1	漆原 尚巳	昇任 薬剤疫学（CK）特定助教より医の倫理委員会事務局特定講師へ
H24.11.1	前川 明子	採用 高次脳科学神経・細胞薬理学特定研究員より次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点特定准教授へ
H24.11.1	古屋敷智之	採用 高次脳科学神経・細胞薬理学助教より同特定准教授へ

会 員 訃 報

（敬称略）

謹んでご冥福をお祈りいたします。

江口 清（昭和7年卒）	ご逝去	峯 宗寛（昭和21年卒）	平成22年12月13日	ご逝去	山岸 司久（昭和29年卒）	平成24年10月18日	ご逝去
林 英式（昭和9年卒）	ご逝去	勝田 禎祐（昭和23年卒）	平成23年10月11日	ご逝去	山中 敏彦（昭和29年卒）	平成24年7月12日	ご逝去
坂口 正一（昭和11年卒）	ご逝去	杉山 孝良（昭和23年卒）	平成24年8月18日	ご逝去	三谷 哲美（昭和30年卒）	平成24年3月14日	ご逝去
門 信雄（昭和15年卒）	平成24年9月29日	藤原 忠良（昭和23年卒）	平成24年9月13日	ご逝去	伏木 信夫（昭和31年卒）		ご逝去
唐川 正典（昭和15年卒）	平成24年7月14日	草刈 卓（昭和23年専卒）	平成24年10月19日	ご逝去	岩崎 辰夫（昭和33年卒）	平成24年6月20日	ご逝去
太藤 重夫（昭和16年3月卒）	平成24年10月18日	澤田 藤一（昭和23年専卒）		ご逝去	岩崎 良文（昭和34年卒）	平成23年8月	ご逝去
井上 雅文（昭和17年卒）	平成23年8月16日	折田 道夫（昭和23年薬卒）		ご逝去	松井 博俊（昭和36年卒）	平成24年1月4日	ご逝去
中野芳太郎（昭和17年専卒）	平成24年9月2日	天沼 史（昭和24年卒）	平成23年10月27日	ご逝去	梅谷 治男（昭和36年薬卒）	平成22年5月14日	ご逝去
葛山 拙郎（昭和17年薬卒）	平成23年11月	井戸 一郎（昭和24年卒）	平成22年4月19日	ご逝去	中田 利一（昭和38年卒）	平成24年8月2日	ご逝去
関 東源（昭和18年卒）	平成20年	柳田 博（昭和24年卒）	平成22年8月4日	ご逝去	大澤 二郎（昭和40年卒）	平成23年8月21日	ご逝去
岡島薬太郎（昭和18年薬卒）	平成23年3月5日	鶴巻龍之助（昭和24年卒）	平成24年8月29日	ご逝去	河本 健（昭和44年院卒）	平成24年5月13日	ご逝去
藤田 栄一（昭和18年薬卒）	平成23年7月	山脇 春夫（昭和24年専卒）	平成24年8月26日	ご逝去	西山 愛子（昭和46年卒）	平成24年7月25日	ご逝去
渡辺 正信（昭和19年卒）		中村善治郎（昭和25年卒）	平成14年10月15日	ご逝去	徳力 康彦（昭和48年卒）	平成24年8月12日	ご逝去
橋本綱太郎（昭和19年専卒）	平成21年11月6日	徳本 孝司（昭和25年専卒）		ご逝去	国村 正敏（昭和49年卒）	平成23年	ご逝去
内藤 寛（昭和20年卒）	平成23年4月30日	横山 脩造（昭和25年専卒）	平成21年8月	ご逝去	平良 健次（昭和50年卒）	平成22年	ご逝去
宮田 正寿（昭和20年卒）	平成24年2月6日	久山 健（昭和26年卒）	平成24年7月9日	ご逝去	白石 隆祐（昭和51年卒）	平成24年9月3日	ご逝去
崔 沅根（昭和20年専卒）	平成18年8月	清水 春彦（昭和26年卒）	平成23年8月11日	ご逝去	白数 徳治（教室会員 解剖1）	平成20年5月8日	ご逝去
赤星 義彦（昭和21年卒）	平成24年8月25日	重永 正之（昭和26年卒）	平成24年8月23日	ご逝去	原山 房子（教室会員 病理）	平成23年11月6日	ご逝去
垣内 誠二（昭和21年卒）		森 芳茂（昭和27年卒）	平成24年	ご逝去	関 清（教室会員 眼科）		ご逝去
岸 昌男（昭和21年卒）	平成22年2月22日	杉原 隆夫（昭和28年卒）	平成24年9月5日	ご逝去	関谷 礼子（教室会員 眼科）	平成24年7月26日	ご逝去
北岡 茂（昭和21年卒）	平成24年6月19日	川勝 昇（昭和29年卒）	平成23年11月	ご逝去	富田 恒成（教室会員 眼科）	平成21年10月	ご逝去
田辺 嘉夫（昭和21年卒）	平成24年1月29日	名取 弘道（昭和29年卒）	平成21年4月30日	ご逝去	片桐 一成（教室会員 口外）		ご逝去

芝蘭会事務局 上1回生） 高屋龍生、西川裕太（以上1回生） 本 慧、大植啓史（以上2回生） 赤埴未宝、宮崎規晶、坂田将史（以上3回生） 真辺 諄、森山太陽、鶴橋本健太郎、中村有輝、山田直生、畑野翔太郎、前田峻宏、宗宮伸弥、柳井谷駿史（以上5回生） 部 員 勝島将夫（6回生） 顧問 中尾一和 芝蘭会雑誌部 介、園部 誠、阿部 恵 委員 斎藤信雄、岩田征良、豊岡伸哉、山田圭 委員長 中尾一和 芝蘭会報編集委員会	芝蘭会事務局 山田 均 事務局長 秋山和美 総務課長 松本 倬 管理課長
--	--

原 稿 募 集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場があります。支部活動、クラス会、会員の著書の紹介（自薦・他薦）及び医学・医療等に関するご意見等を寄稿ください。なお、原稿の採用及び掲載時期については、編集委員会でご決めさせていただきます。

芝蘭会報 編集委員会

●事務局から●

平成17年4月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報の取扱いに厳しい制約が課せられました。つきましては会員の連絡先等のお問い合わせは、必要理由等を明記の上、郵便またはFAXにより事務局までご送付ください。電話でのお問い合わせにはお答え致しかねますのでご了承ください。（FAX 075-752-4015）